

令和6年度 学校経営計画・学校評価			☑4月4日提出	☑10月3日提出	☑3月14日提出	学校番号	27	高岡	高等学校	課程	全
高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	① 予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ② 多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③ 生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④ 各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備							
	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○今の自分を認め、成長させたいという意欲をもっている生徒。 ○高校生活で「付けたい力」を言うことができる生徒。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○自分を大切にし、他の人も大切に考えられるようになる。 ○目標をもち、自ら考え行動できるようになる。 ○協働して行動できるようになる。 ○地元へ愛着をもつことができる。			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○将来を見据えた学力、体力をつけ、感性を磨く。 ○地域貢献活動や地域と連携した取組をととして、他人と関わる活動を積極的に行う。 ○地元の人とともに課題解決を考え、行動する。							

学校関係者評価		
【学力の向上】	評価	【 B 】
苦手な科目の対策として、授業で理解できなかった内容などを、補習以外にも気軽に先生に質問したり復習できたりする場があれば良いと思う。不登校の子ども達が社会とつながるための学びを提供する特別コースや防災・交通安全の専門的な知識技能を学べるコースなど、特色ある学科をぜひ作っていただきたい。		
【社会性の育成】	評価	【 A 】
地域行事やイベントへ、高岡高校生徒の皆さんの参加が以前よりも活発になっていると感じます。子どもたちと楽しく自然体に接する姿は見ていても感動します。地域と接点のできるキャリア教育等、地域とのネットワークが活かされている授業がこれからも大切にされ、生徒が地域や人のつながりを感じる「機会」「きっかけ」が増えることを願っています。		
【チーム学校】	評価	【 B 】
あいさつ運動やヘルメットの啓発活動はよく見ていました。また、平成17年から続いている「ふれあい出前非行防止教室」が受け継がれていることが本当に素晴らしいと思います。評価項目に対して、取り組みや状況がもう少し分かるような情報発信があれば、評価の判断を難しく感じなかったと思います。もう少し、子供たちが楽しく過ごせるようにしてほしいです。		

			育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上		★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○C層以上の生徒の増加 ・1年: (R6第1回_13.3) % → (20.0) % ・2年: (R6第1回_19.0) % → (25.0) % ○授業外学習時間の増加 高知県オリジナルアンケートでの肯定的回答 【問2】 授業以外で、平日の1日2時間以上勉強している 目標: 25%以上。(R5: 1,2年生が1時間以上勉強している 22%) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・「読書を週に3時間以上する」生徒の割合を15%以上。	・デイリートレーニング(学び直し)での課題提出率100%を目標とし、課題提出状況を見える化する。 ・ウィークリーテストの合格率8割以上を目標とし、生徒に自信をつけさせ主体的な学びに向かわすような生徒の実態に合わせた問題を作成。 ・キャリアノートにスマートフォン等の使用時間、学習時間を記録させ、クラス正・副担任が毎週確認して改善指導を行う。	☆ C層以上(6月結果) 1年: 全体 13.3% (4人/30人) 国 34.5%, 数 10.3%, 英 3.4% 2年: 全体 19.0% (4人/21人) 国 33.3%, 数 14.3%, 英 14.3% ☆ 【問2】 9.1% (15.9p減) 【問3】 16.9% (1.6p増) ☆ ウィークリーテスト合格率(9.10まで) 1年 79.9% (0.1p減) 2年 72.8% (7.2p減) 3年 61.1% (18.9p減) ☆ デイリートレーニング(学び直し)課題提出状況(9月10日まで) 1年 100%, 2年 97.8%, 3年 94.6%	○基礎力診断テスト受験までに、各教科で受験までの具体的な学習活動を提示する。 ○授業と家庭学習の繋がりを持たせた授業を、回数を定めて実施する。 ○キャリアノートの活用は、クラスで点検回数を記録し、学年会で活用方法を共有する。 ○ウィークリーテストの合格率は、各学年で目標値を設定し、到達に向けた具体的な取り組みを設定して実行する。	○C層以上の生徒の増加 ・1年 20.7% (7.4p増) 2年 45.0% (21.5p増) ・英語と数学で、習熟度別授業を行うことにより、学力の定着を図ることができ、生徒の進路目標の向上に繋がっている。 ●【問2】 10.2% (14.8p減) ● 読書をする生徒 11% (4p減) ○個に応じた支援に関する研修の継続及び、教員の実践を評価・改善できる取組を実施する。 ・教員の指導支援の実践(工夫)を記録して残すとともに、活用できるようにまとめた。	○デイリー・ウィークリーの実施方法を工夫 ○一斉指導が届きづらい生徒へのアプローチを検討 ・生徒に応じた個別指導が必要 ○学校支援担当のアドバイスに関する報告会を実施 ○授業外学習が増える工夫 ・検定試験の受験機会を増やし、積極的な受験を促す ・スマホ等での学習ソフト・アプリの活用を検討
		社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	高知県オリジナルアンケートでの肯定的回答 【問24】 何か困ったことや問題が起きた時に、周りの人に相談することができる 目標 80%以上 (R5: 78.4%) 【問28】 解決に時間がかかることでも、最後まで考えたり、行動したりしている 目標 85%以上 (R5: 81.3%)	・各学期に1回以上、クラス正・副担任が面談を実施する。 ・キャリアノートを活用し、行事や学習計画を立て、振り返りができる時間を確保、クラス正・副担任が週1回程度確認し、助言する。	☆ 【問24】 88.2% (8.2p増) 【問28】 89.9% (4.9p増) ☆生徒・保護者との面談は、計画通りに実施できている。 ☆キャリアノートの活用は、クラス状況によるが、確認・助言の回数に差がある。	○生徒や保護者との面談は、回数に拘ることなく、タイミングを見逃さずに実施する。 ○キャリアノートの活用方法を共有し、生徒の生活面や心理面の変化を見逃さない。 ○アンケートでの肯定的回答が低下しないよう、社会とのつながりを意識させる活動を継続する。	○ 【問24】 89.4% (9.4p増), 【問28】 87.2% (2.2p増) ● キャリアノートの活用方法の共通理解が図れず、成果が限定的であった。 ○一方で、生徒や保護者との面談の実施により、生徒や保護者の思いは丁寧に関き取ることができた。	○キャリアノートの効果的な活用・学年ごとに実施 ○社会性の育成の観点から、ソーシャルスキルトレーニングの取組の検討 ○人権教育・児童生徒課事業の活用を検討
取組項目	地域協働学習		【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	高知県オリジナルアンケートでの肯定的回答 【問19】 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある 目標: 65%以上。(R5: 60.4%) 【問21】 高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動を行ったことがある 目標: 70%以上。(R5: 43.6%)	・「総合的な探究の時間」で、地域の課題解決に向けた探究活動を実施する。 ・「総合的な探究の時間」で、年間2回以上ボランティア活動へ参加するよう設定する。 ・1,2年生は、「総合的な探究の時間」で、地域へのフィールドワークを実施する。	☆ 【問19】 64.3% (0.7p減) 【問21】 64.8% (5.2p減) ☆ボランティア: 1学年1回(8月; 参加率34.5%) ☆フィールドワーク: 1,2年とも1回以上実施している。	○探究活動で地域の課題や実状を知ること、土佐市を良くしようとする思いから行動を考えるようになる。 ○ボランティア活動の情報を一元的に集約し、生徒が最低1回は参加するよう、情報発信する。	●【問19】 61.0% (4.0p減), 【問21】 66.3% (3.7p減) ○探究的な活動のまとめ、発表会が実施でき、地域の方からアドバイス等をいただけた。 ○ボランティア窓口の一元化により円滑な募集につながった。	○探究課題を、生徒の興味に基づく課題から、地域課題へと変更
		教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	・各教科、年間2回以上教科横断的授業を実施する。 ・「総合的な探究の時間」において、各学年最低1組は、各教科の学びをいかした探究テーマに設定する。	・6月と10月の公開授業週間に各教科、1回以上教科横断的授業を実施する。 ・探究テーマにSDGsに関する内容を組み合わせる。 ・「総合的な探究の時間」での活動等において、地域と連携し、地域の課題について学習する機会を設ける。	☆ 6月の公開授業週間は実施できていない。 ☆探究テーマは、全ての班でSDGsに関連したものとなっている。 ☆ 1,2年の探究活動は、地域の課題に沿ったテーマを設定し、地域の住民や団体と繋がりを持ち取り組んでいる。	○2学期中に公開授業を実施する。 ○授業と家庭学習の繋がりを持たせた授業を計画的に実践する。 ○1,2年生の探究学習は、次年度以降の活動の枠組みと内容、学校として取り組むべき課題を明確にする。	○学校支援担当の教科訪問で公開授業を行い、教科の枠を超えた授業改善に取り組むことができた。 ○個に応じた支援に関する研修の継続及び、教員の実践を評価・改善する取組について、次年度も継続実施する。 ● 昨年度まで行っていた公開授業週間を実施できなかった。	○学校支援担当のアドバイスに関する報告会を実施 ○個に応じた支援に関する取組は、教員の指導支援の実践(工夫)を記録して残すとともに、活用しやすい工夫を検討

			取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興		★学校の魅力化 ○地域貢献活動や地域と連携した取組をとおして、他人と関わる活動を積極的に行う。	・四国大会及び全国大会へ出場できる部活動を一つ以上つくる。 ・部活動の加入率 75%以上。(R5: 72.2%) ・ボランティア活動へ参加する生徒の割合 75%以上。(R5: 43.6%)	・部活動への入部を勧める。 ・地域のボランティア活動について生徒に周知し、参加を勧める。	☆ レスリング部は、四国IHと全国IHへ出場 ☆ 部活動加入率 70.4% ☆ ボランティア活動に参加した生徒、少なくともものべ97名	○ボランティア活動(土佐市産業祭、龍馬マラソン等)への参加を呼び掛ける。 ○部活動は、県大会で入賞ができる個人・団体の育成に努め、四国・全国大会を目指す。	○1年生は積極的にボランティアに参加できた。 ● 活躍する部活動はあるものの限定的である。	○コンソーシアム会議を活用した魅力化・特色化の検討 ○軽音楽部の演奏機会(場所)の拡大
	不祥事防止		★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 ・職員室等での書類の整理整頓や管理体制の見直し。 ○校内研修の実施回数: 年間5回 ○不祥事防止委員会の実施回数: 各学期1回	・各学期に、デスク周辺を整理整頓する週間を設定する。 ・各学期の成績会議後や職員会議後に、研修会を設定する。	☆ 夏期休業中に生徒部、教務部、教頭が書類の整理を行う。 ☆ 不祥事防止の校内研修は3回実施。	○校内研修を2回以上実施する。 ○個人情報の取り扱い、校内研修で周知された内容を確認に行う。	○不祥事防止委員会(5回)と不祥事防止委員会で企画した校内研修(5回)を、計画通りに実施できた。	○不祥事防止委員会と不祥事防止に関する校内研修を年間を通して計画的に実施
	働き方改革		★長時間勤務の解消 ・勤務時間外の勤務時間を削減及び効果的な教育活動の実施。	勤務時間外労働を、1ヵ月45時間以内、年間360時間以内を厳守する。 (R5: 45時間を超える勤務回数は、6回/3名、360時間超過は3名)	・各分掌で仕事を精選、見直しにより、効率化を図る。 ・1ヵ月45時間を超えないように管理職から勤務について改善するように働きかける。 ・すべての部活動を複数顧問制(2〜4名)とする。 ・部活動ガイドラインの周知徹底。	☆ 月45時間以上勤務した者は、のべ5名 ☆ 時間外勤務時間: 一人当たりの月平均19時間 ☆ 夏期休暇の取得率: 82.5%	○繁忙期でも1人に過度な負担とならないよう、協力して分掌業務を行う。 ○会計年度任用職員が分掌の事務補助を担うことで、教員の事務処理の削減を進める。 ○部活動ガイドラインに沿った計画を立て、実行する。	● 部活動や校務の繁忙期には、特定の教員の勤務時間が増加することは否めない。	○年間を通して、長時間勤務となる職員が出ないように工夫 ○会計年度任用職員の力を借りて、教員業務のさらなる削減